

樫谷議員 おはようございます。それでは、通告してありました３点について、一般質問させていただきます。鬼ヶ岩屋健康管理センター、今後のゆくえは。について、２０１２年８月１日より休館して以来、２年が来ようとしている。鬼ヶ岩屋健康管理センターですが、２０１２年４月１日に健康管理センター検討委員会を設置し、住民アンケート等を実施し、７月３１日には指定管理による運営を終了し、休館としています。審議委員会の答申を受け、売却の予定で話しが進んでいるところですが、温泉運営を条件にホームページによる公募開始しまして、翌月８月５日には温泉施設運営を必要としない要綱に変更し、公募を募ってみたが公募期間中、問い合わせ無しという結果に終わっています。その後、仲介業者や金融機関を通じても不調で効果は上がっていません。１２月議会でも横尾議員がこのことについて質問されていますが、議員の中でも関心が多いことが伺われます。売却の話しはその後、進んでいるのか、進まない理由は何か、売却に必要な近辺整理はできそうなのか、お聞きいたします。すべて、手をつくしているにもかかわらず、進んでいないのであれば、これ以上、この施設を放置し続けることは施設の内容がますます悪くなる一方ではないかと懸念するところです。庭は草ぼうぼう状態、中は特に風呂場はカビなどの繁殖なども気にかかるところです。施設内外においても、このまま未使用のままでは老朽化を加速することとなるのではないかと思います。もうそろそろ次の段階に進むべき時期にきているのではないかと思います。町長の見解と今後の展望について、お聞きいたします。つぎに避難タワーの嵩上げ検討についてです。現在の避難タワーは当時、津波の高さ６ｍを想定し、対応できる避難タワーとして建設しました避難場所です。来る巨大大地震対策として、もう一度検討すべき時が来ているのではないかと思います。既に町外では避難タワーの嵩上げ工事に着工し、完成したところもあります。牟岐町としては、嵩上げの検討は考えていないのか、現在の避難タワーの高さで避難した町民の命が守られるのかお聞きいたします。つぎに西の浜の堤防の嵩上げは、どこまで進んでいるのか、県の仕事である樋門の横の堤防は未だに出来ておりません。国、県においても来る巨大大地震に向けハイピッチで進められているところですが、

いつ頃完成の予定か。海部病院関係の事業も抱え大変な時だと思いますが、震災は工事完成の遅れを待ってはくれません。国土交通省は、この24日、地方自治体の公共事業の発注方法に複数年契約や複数工事の一括発注など採用するように決めています。こういったことを利用し、牟岐町民の一番大事な町民の命を守る取り組みは、何をおいても進めなければならない事業ではないかと思います。早くやっておけば良かったと後で後悔することのないよう、町長の見解をお聞きし、つぎの質問に移ります。3点目に町内インフラの老朽化対策の今後の取り組みはについてですが、この質問も来る南海トラフ巨大地震に向けての質問です。徳島ゼロ作戦、緊急対策事業に先駆けて、命をつなぐ道路確保に排水溝、側溝、橋の老朽化の工事を早急に調査し、不備な箇所、危険と思われる箇所は無いのか、既に調査、点検済みなのかお聞きします。生命にかかわるインフラの老朽化の工事を今、牟岐町において、特に優先して行わなければならない箇所は残っているのか、お聞きいたします。また、東の田中前線より続く排水溝は、もともと川が流れていたのを川を埋め立て作られた道路ですが、上の道路もあちこち傷んではいますが、あの道路の下には排水溝が流れています。もし、大地震が起きれば、陥没する恐れはないのかお聞きいたします。危険性があるのであれば、道路自体が落ち込み、付近の住民は逃げる道路を失う恐れがあります。調査、検査がなされ、大丈夫なのかお聞きいたします。また、インフラ老朽化において、まだ出来ていない箇所は、どれぐらいあるのか、その優先順序はどうなのかも併せてお聞きいたします。以上、3件について、答弁をよろしくお願いいたします。

杣富議長 福井町長。

福井町長 榎谷議員のご質問にお答えいたします。まず鬼ヶ岩屋健康管理センターの譲渡にかかる経緯と今後についてでございますが、昨年、施設を民間に譲渡するため、2度の公募を行いました、1度目は温泉として活用していただける方に対するものであり、2度目は温泉活用の条件を外し、風俗営業とか非

合法的な利用を禁ずるほか、特に条件を付けず公募いたしました。1件も応募がありませんでした。従いまして、つぎに県内金融機関や老人保健施設、また、県内企業の方にも直接、あるいは、間接的に打診いたしましたが、現時点では、前向きなご返事はいただいております。町会議員の方、国会議員の方、あるいは、県外企業の方にもお声かけいただきましたが、現時点では、芳しいご回答はございません。その理由として考えられるのは景気回復の波がまだ地方に伝わっておらず、より事業拡大に手を出す方がおいでないことかと思われます。今後は、さらに範囲を広げ、より多くの企業の方に働きかけを行うとともに、町として、あるいは、地域で活用できないか、牟岐町活性化センターの活用の中でも検討していただきたいと考えております。議員各位におかれましてもお知り合いの方へのお声かけや今後の活用について、ご提案いただければ有難いと思います。つぎに津波避難タワーの嵩上げについてでございますが、まず現在の津波避難タワーでございますが、来るべき南海地震に備え平成18年度と20年度にそれぞれ出羽島と中村に設置したものでございます。当時は、想定津波高が現在想定されるものよりかなり低かったこともあり、現在の避難タワーで安全かとのご心配かと思いますが、幸い牟岐町の両避難タワーとも昨年11月に県が公表した津波災害警戒区域図案による基準水位よりも高い位置に床面があり、一応、安全であると判断しております。しかしながら、現在、徳島県で進めている改訂「海岸保全基本計画」では、南海トラフ地震の場合、牟岐町で1m近く沿岸部の地盤が沈下することとございますので、やはり1m近い余裕は必要なのかと思っておりますし、先の東北地方太平洋沖地震では、津波警報が解除されるまで丸一日近くかかりましたので、タワーの上での待機を考えますと、できるだけ継続的な避難行動のできる近くの高台の避難所に避難していただくのがより良い選択であると考えております。いずれにいたしましても、この4月に防災避難マップについて、皆さんに提示したいと思っております。できるだけ皆さん方でどこに避難したらいいかということを考えて避難できるような避難マップにしたいと考えております。つぎに町内のインフラの老朽化対応についてでございますが、生活インフラである道路、橋などは日常

生活においては無くてはならないものでございますが、大規模災害時には避難者の命にかかわるものでございますので、平時より大規模災害に備え、適正な維持管理が必要であると認識いたしております。従いまして、国や県では阪神・淡路大震災以降、耐震対策として継続的な維持補修を行ってまいりましたが、先の東日本大震災により、つぎに東海・南海地震の発生確立の高い地域において、より一層耐震対策を進めるよう指導を受けているところでございます。また、2012年の笹子トンネルの天井板落下事故以来、全国的な公共インフラの老朽化がクローズアップされ、悲惨な事故の再発を防止するため、橋やトンネルなど社会インフラの老朽化対策が喫緊の課題として捉えられ、本町においても積極的に整備を促進しております。これまでの老朽化対策の状況については、後ほど課長からご説明いたしますが、牟岐町といたしましても、来るべき南海地震、南海トラフ地震に備え、国や県のご支援もいただきながら、可及的速やかに対策を実施してまいりたいと考えております。

枅富議長 久米産業課長。

久米産業課長 私の方からは、西の浜の堤防の嵩上げ及び水門工事の見通し等について、補足説明をさせていただきたいと思っております。西の浜の堤防と水門につきましては、議員がおっしゃるとおり県事業で進めているところでございます。堤防の嵩上げにつきましては、大幅な計画変更を伴いまして、設計基準の考え方から見ましても県におきましても現時点では、現在の堤防高の嵩上げはないというふうに考えております。また、水門につきましては、設備は完成しておりますが、ご指摘のとおり堤防との70m区間が未着工となっております。県に確認いたしましたところ、地元から早期完成の強い要望を受けたこともございまして、予定より着手を早める意向であるとお聞きいたしております。なお、参考までに東日本大震災後、新しい津波対策の考え方が内閣府より示され県においても南海トラフの地震津波に対する海岸保全の方向性や整備の在り方を位置づけるべく海岸保全基本計画、これの改訂作業を進めております。牟岐

町におきましても、その計画策定の指標となる徳島県設計津波検討海岸管理者協議会、この協議会段階から参画いたしまして、意見や提言を行ってまいったところでございます。改訂素案につきましては、3月7日に県の方での意見集約もあったと聞いております。今後は取りまとめにかかるものと思われまので、現工事につきましては、早期の事業完了に向けて引き続き働きかけをしていきたいというふうに考えています。

杣富議長 寒葉建設課長。

寒葉建設課長 樫谷議員さんの町内のインフラの老朽化対策の今後の取り組みにつきましての質問に町長の答弁の補足としてお答えさせていただきます。牟岐町は、平成19年に橋梁点検から始まり、道路付属物、舗装の点検を実施してまいりました。橋梁点検につきましては、平成19年度に重要橋梁の26橋を点検、また、平成24年度に残りの74橋梁を点検いたしました。この点検をもとに長寿命化計画、修繕計画を立てて25年度より社会資本総合整備事業の交付金事業で本年度から八坂橋の修繕工事を実施しておるところでございます。26年度につきましては、東の観音寺川橋の修繕を予定しております。今後の計画といたしましては、26年度に5年毎の定期点検、重要橋梁26橋を実施する予定で、点検の結果を踏まえまして修繕計画の変更も実施することとなります。道路付属物、舗装につきましては、平成25年度道路照明17基を高所作業車にて調査点検を実施いたしまして、今後の補修計画の参考としております。舗装につきましては、町内約50kmを移動計測車両による路面のひび割れ、わだち掘れ、凹凸の調査を実施し、損傷レベルでの補修、修繕計画の参考として利用しておるところでございます。議員ご質問にございましたけれども、東の田中前線の排水溝ということで、特にBOXカルバートにつきましては、現在構造物自体の調査を実施しておりませんが、今後、調査を含めて現状を確認のうえ、国、県等のご指導をいただきながら修繕、維持管理等の方法を検討いたしまして、長寿命化を図れるように対応していきたいというふうに

考えております。また、地震津波に対応すべく避難路に通じる道路を特に優先して修繕等の計画を立てて実施をしていきたいというふうに考えておるところでございます。

枅富議長 枅谷議員。

枅谷議員 再問いたします。まず1番の鬼ヶ岩屋健康管理センターですが、敷地代金として250千円計上されていますが、売却後はどのような形になるのでしょうか。それと、公募の期間を設けないのかということですね。これから2年も3年も売れる間、期間を待つのか、ある程度の期間を区切ってやるのかということを知りたいと思います。それから、2番目の旧の牟岐小学校タワーですね。中の島の住民において山への避難が遠いですね。そうかと言って海や川に非常に近いということで、高齢者や避難弱者にとって、唯一の命の高台ではないかと思われます。その高台に上ったが、低かったために流されてしまったというようなことのないようにお願いしたいと思います。今、町長の答弁では高台は長期おるところではないということ、一時津波が来るのを凌ぐところなので、そこで生活して高台で過ごすというのはあまりないのです。津波の来るのを一時そこで山に行けない人が命をかけて、そこで避難するという場所ではないかと思います。そのために6mに記載した高さは大丈夫なのかということなのです。他にもあると思いますけれども、特に中の島の小学校のところのタワーは、山へ行くのが遠いですね。高齢者、弱者について、どう考えておるのか、そのところ再度お願いしたいと思います。3番目の老朽化、側溝については、陥没の恐れのある調査、検査、これを早急にさせていただいて、特に東の中、あそこの川の流れのところなんかは陥没の恐れがないのか、早く調査をしていただいて、大丈夫だというのであれば良いのですが、そうでなければ陥没したら逃げる道路が無くなってしまいますので、早いことの調査、検査をお願いしたいと思います。以上、3点について再問いたしましたので、答弁をお願いいたします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 まず鬼ヶ岩屋の件でございますけども、公募期間というのは、今の時点では設けてございません。と言いますのは、いつご返事があるかというのは、分かりませんし、できるだけ民間の方から公募いただかないことには、現時点で判断するには牟岐町で運営していくというのは非常に難しいということを考えておりますので、いつまでもというわけにはいきませんが、できるだけ公募期間を設けずに働きかけを行いながらやっていきたい。また、並行して牟岐町で本当に温泉としての管理というのは非常に難しいと思いますけども、温泉以外の施設利用も含めてやっていけないかということも検討してまいりたいということでございます。それと、もう一つ温泉について何か言われていましたが聞こえなかったのです。

桜谷議員 250千円計上されていますよね。それをずっと売却した後も続けていくのかということです。

福井町長 それは温泉の源泉の利用料という意味ですね。温泉として使う場合にはそれが必要になりますし、温泉として使わない場合は必要ないということになるのです。

桜谷議員 250千円を町が負担していくのか。

福井町長 町が基本的には負担しないということです。それと、旧牟岐小横の避難タワーについてですけども、あそこは県の浸水予想図からしたら73cmほど余裕があるということでございます。非常に微妙な高さでございますけども、この73cmというのは、南海トラフ地震に対することでございますので、南海地震に対しては十分な余裕はあるということでございます。あの周辺に旧

の牟岐小学校の屋上とか海部病院とかもございますので、そちらの方を利用させていただくとか、避難タワーというのは、冬場なんかに避難するのに居住性が悪いというところがございますので、できるだけ居住性の良い所に避難していただけるよう常日頃から皆様方の方で考えていただいて、どうしてもということであれば、また、考えなければいけないかなというふうに考えております。それと、老朽化対応の側溝の対策、検査、調査ということでございますけども、おっしゃっているように、このところ地面の舗装面の下が抜けて陥没したという話しが時々ございます。そういうこともございますので、できるだけ早く補修をしてまいりたいと考えております。

杵富議長 榎谷議員。

榎谷議員 再々問になりますが、これは牟岐町の健康管理センターの要綱です。この要綱を見ましたら、本当に牟岐町内の人があそこでやって頑張っていこうという意欲があっても、手が出せない状態です。この要綱をみましたら、出せない状態です。だから、これをもう少し緩和して、本当に意欲のある人が経営できるような状態にしていくべきだと私は思います。これを見ましたら、売ってあげますと上から目線なのです。だから、今、たくさん応募がありまして、その中から選択するというのであれば、この要綱で結構なのですが、無い状態では、このランクを少し下げなければ、いつまで経ってもできないのではないかと、そのように思います。3月11日ですね、東北巨大地震により今日で丁度3年になりました。家や財産をなくしたことも去ることながら、家族、肉親を亡くした心の傷は、未だにその傷が癒されておりません。町長、必ずしも巨大地震に向けて、牟岐町ゼロの作戦、緊急対策を設立し、できるだけ早い対応と急ピッチの事業をお願い申し上げまして、私の一般質問を終わらせていただきます。